

#### 4 マツタケの収穫と出荷

マツタケの採取時には、できるだけシロを踏まないように注意し、採取跡の穴はつぶしておくことが大切である。

マツタケの大きさは発育段階により、コロ、ツボミ、中ツボミ、ヒラキと呼ばれているが、広島県内では一般に第12表出荷規格によって選別がなされている。

また、マツタケの優良品としては次のような条件がある。

- (1) カサは肉厚で、光沢は鮮明で、弾力性があるもの、香りの強いもの。
- (2) 茎は傘の直径とほぼ同大で、基部は太く、弾力性のあるもの。
- (3) 肉質は色白で、虫害その他による褐色の斑点がないもの。

第12表 出荷の規格

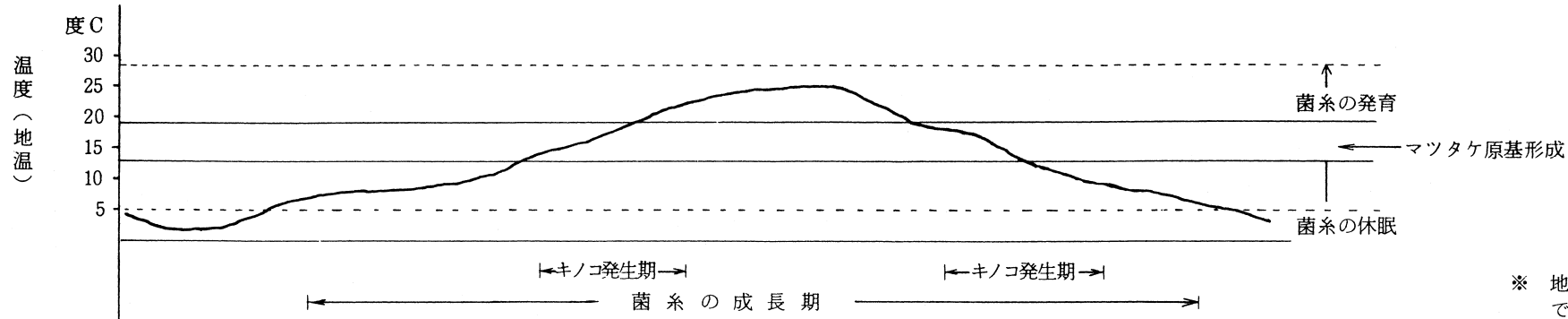
(広島県経済連規格)

品位	規格	選別基準
つぼみ	特大つぼみ	カサの膜切れがなく、肌白で足の直径3.5cm以上、長さ12cm以上のもの
	特選つぼみ	カサの膜切れがなく、肌白で足の直径3.5cm以上、長さ9cm以上のもの
	つぼみ	特大、特選以外のもので、やや細いもの
	優つぼみ	特大、特選、つぼみの選び残りのもの
中つぼみ	特選中つぼみ	特選
	中つぼみ	カサ裏膜開裂限度30%までのもの
ひらき	特選ひらき	特選
	ひらき	カサが80%以上開いたもの
	優ひらき	カサが80%以上開いたもの
ころ	特選ころ	特選
	ころ	生育不十分でカサのかたくしまった、長さ6cm以下のもの

参考資料 1

(1) マツタケ山づくりと管理ごよみ

第13表 マツタケ山づくりと管理ごよみ



※ 地温は世羅郡甲山町林業試験場マツタケ試験地での地表下10cmの観測結果である。

作業		月別												備	考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
未発生林 (若齢林)	アカマツ立木の密度調整	除間伐 → ①④										← 除間伐	10～15年生位より第1回の除間伐を始め、3～5年毎に間伐くり返し、マツタケ発生適齢林までに1ha当たり枝張りのよいマツが1,000～2,000本程度にする。		
	上層広葉樹の除伐	不要、有害広葉樹の伐採除去 → ①										←	コシアブラ(ゴンゼツ)、リョウブ、タカノツメ、ホウノキ、クリ、コナラは上層のアカマツの立木密度が疎で開きすぎる以外は全て伐採する。少ない場合、アカマツの植栽をする。		
	雑木の手入れ	密度の調整、中切、摘芯、枝おろし → ①②③④⑤					密度調整(不要木の除伐)徒長木の剪定 ← ②③④⑤					←	最終的に1㎡当たり1～2本に整理し、樹冠径平均60～70cmとなるように施業する。また、樹冠層を1.5～2m施業後の生育を見込んで3m以内になるように1.5mで摘芯し、1m以下は枝おろしをする。日陰度は65～75%に調整する。		
	地表植生の整理	掘取、除去 → ②③④⑤				掘取不可能地刈払、除草剤使用 → ②								←	ツツジ、ソヨゴ、イヌツゲ、ササ、カヤ、シダなどの掘取除去。掘取不可能地は刈払をくり返す。未発生林は除草剤を使用してもよい。
	落葉腐植層のかきとり整理	かき起し、落葉の整理 → ②⑤													マツタケ菌は、落葉腐植層内では生育できない。この層が厚くなると、アカマツ細根がこの層に伸長してくる。また、保水性も高くなり、マツタケ菌には不都合となってくるので、かき起し整理して厚さ2～3cmにする。尾根筋などで落葉や腐植が皆無か、非常に少ないときは、落葉やワラなどを敷き並べる。
シロの造成	マツタケ菌感染苗による方法	シロ造成予定地の施業 ② →					苗木植栽① 感染苗移植③ ←					位置確認 ① ←		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 感染苗、シロの移植は、キノコの発生位置を確認して、シロの広がりを調査する。</li> <li>• 感染苗づくりは、シロの周辺の状況により下木を疎開させる作業をする。シロの移植は、シロの外側30cmぐらい、落葉腐植層を整理して厚さ3cmぐらいにする。</li> <li>• 環境整備が行われ、アカマツ細根の多い所を選び、感染苗、シロの移植を行う。シロの移植は幅20cm、長さ30cm、深さ10cmの塊を掘り取り行う。</li> <li>• 孢子落下法は、環境改善を行った。アカマツ細根の多い所に開きマツタケを植え、2日間ぐらい孢子を落す。但し、キノコはそこで腐敗させない。</li> </ul>	
	シロの移植、孢子落下法による方法	シロ造成予定地の施業 ② →					シロの移植 ③ ←					落葉腐植層の整理 ①② ←			苗木植栽 ① ←
発生林	雑木の手入れ	密度調整、中切、摘芯、枝おろし →				かき起しなど ←				密度調整、徒長木の剪定 →				←	若齢、未発生林と同じように行う。
	かん水	かん水(必要なとき) →													8～10月の間の降雨量とかん水量は500mm前後が適当である。毎年かん水を行うと植生、微生物相が変化することが考えられるので注意する。
	トンネル栽培									発生位置の確認 ①②以降 ←				トンネル設置 ②以降 ←	

(注) 丸の中の数字は施業年次を表すものである。